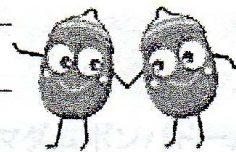


楽 楽

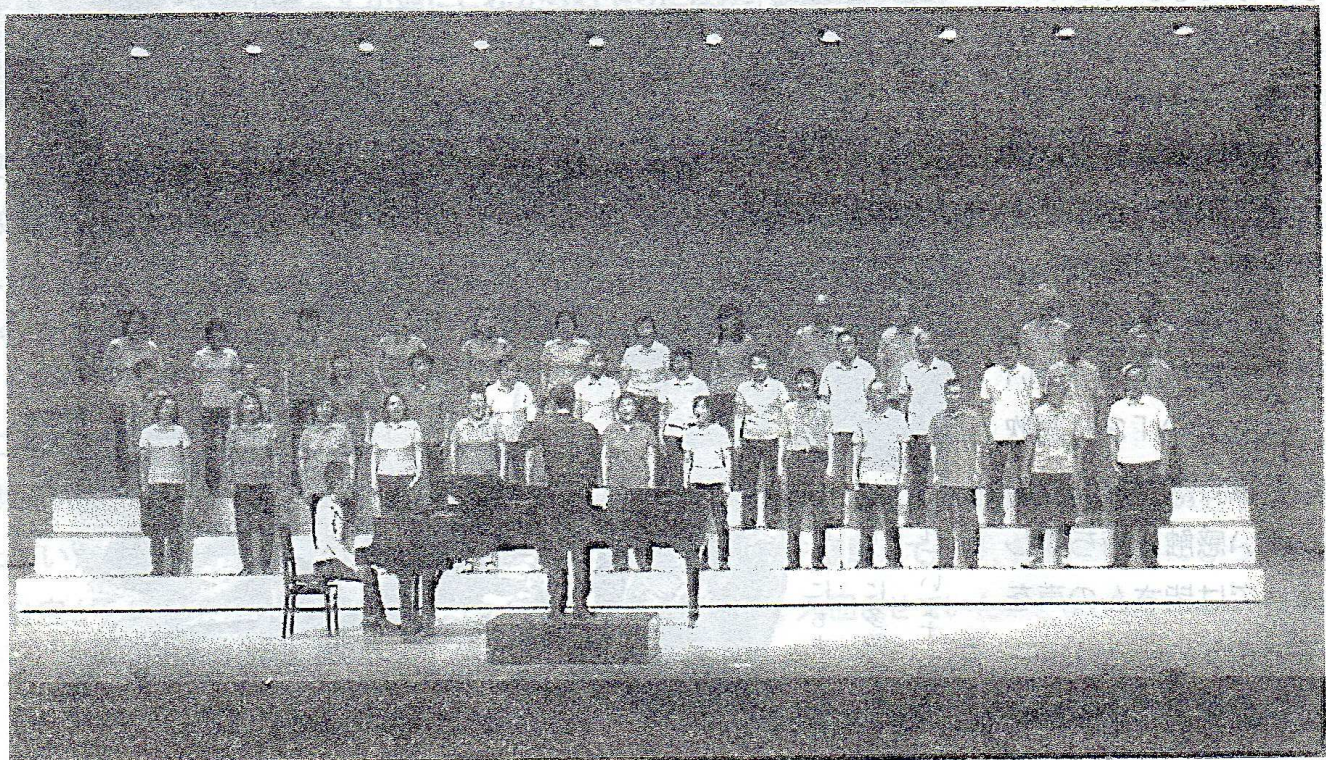

<http://www.asahikonsei.com/>

■練習スケジュール■

月 / 日	会 場	時 間	備 考
9 月	11 日(土)	旭丘公民館	19:00～21:00
	18 日(土)	〃	〃
	26 日(日)	〃	18:00～ヴォイトレ(全員対象)
10 月	3 日(日)	〃	〃
	9 日(土)	〃	〃
	16 日(土)	中央公民館軽音楽室 1	〃
	24 日(日)	旭丘公民館	〃
	30 日(土)	〃	〃
	6 日(土)	〃	7 日の音楽祭出演時間により変更あり
	7 日(日)	第 29 回尾張旭市民音楽祭	
11 月	13 日(土)	旭丘公民館	19:00～21:00
	20 日(土)	〃	〃
	27 日(土)	〃	〃



■瀬戸合唱フェスティバルでの感想を寄せていただきました。 ～次ページへ～



写真提供は、ソプラノ須田千賀子さんです。

★～瀬戸合唱フェスティバルでの演奏を聴いて～★

出演者の方々、酷暑の夏、4曲の暗譜をこなし、曲をよくまとめられましたね。

新しい風も吹き、響き方も少し以前と変わった気がしてこれからが期待できそうです。

♪アカペラ2曲

①やはり外国語は難しい。日本人だものね。

フレーズの最後まで丁寧に歌うことが大切かと思います。(ブレスの前の言葉がいい加減)言葉負けして
いて響きまで考えが行かない箇所がある。

子音のm、nなどハーモニーの余韻が楽しめる余裕が出てくると最高です。定演では自分たちの演奏に
鳥肌立たいね～!

②響き方に波があり、おお～いいな!という時もあれば、ビブラートや音程の不安定な箇所、特に女声・
男声のパートソロは目立つので課題でしょうか。

♪日本歌曲

2曲とも、ひとみ先生の心地よい伴奏に気持ちが開放され、神谷先生のダイナミクスの指示通りに歌
えていたと思います。こういう曲は旭にぴったりなので1年後は、本領発揮してお客様に伝えられるス
テージになりそう!ただ、ゴンドラは大きな2拍子にはまだ乗れていないかも。

カチューシャは、女声の2度の音程がどれも上がりきっていなかったのが気になりました。(かわい～
やのパターン)この曲は、十六分音符の流れが多いので、響きの滑らかさが出ればもっと素敵になるか
と思います。どの曲も「え」の響きがとても汚いのでこれからの大きな課題のような気がします。

久しぶりに聴く側に回りましたが、こうやって全体を聴くのもいい経験だな・・・と思いました。

1年後の演奏会はぜひステージ上で・・・と願っております。

Sopのカメラ小僧こと“須田ちか”でした。

■暑気払い懇親会兼新入団員歓迎会を終えて

かってない暑い夏の夜、8月
21日の懇親会には35人の参
加者があり、みんなよくしゃべ
り、笑い、飲みました。新入団
員の波多野さん、伊藤さんのパ
ワーには誰もが圧倒されていま
した。これからが楽しみです。

最後に2曲歌ってお開きにし
ました。(もっと歌いたかったけ
ど、わが団には持ち歌が少ない
からネ・・・心の声)「3時間飲
み放題にして欲しかった」との
声も聞かれ良い感触を持ちまし
た。レク係りでは皆さんの声
をお待ちしています。

(レク係:大澤泊子)



写真提供:須田千賀子さん

この他にもホーム
ページに多数掲載
されています

☆突撃インタビュー☆



6月に入団されましたアルトの“伊藤雅代”さんです。

早くも歓迎会でその明るくパワフルなキャラが知れ渡りました！
たのしいニューフェイスです。

《自己紹介をお願いいたします。》

10月5日のてんびん座で、元オリンピック選手で国会議員の「橋本聖子」と生年月日が同じで、私も聖火の聖をとって聖子となる予定でしたが、父の一言で今の名前になりました。（聖子だったらもしかしてオリンピック選手？）家族は、主人、長女と長男の4人家族で、全員合唱人です。性格は明るく、ポジティブ人間ですが、ステージの上になつと緊張して顔がひきつります。自宅は尾張旭市平子町です。仕事は敷島パンに努め、毎日パンを食べています？（CVSのパンの企画をやっており、わが子のようなパンがいくつか店頭にならんでおります。）

《ご趣味、続けていらっしゃることはなんですか？》

学生時代からスキーを続け、現在も子供をスクールに入れるため？といいつつ、スキースクールにこもっています。また、4年前からゴルフをはじめ、「とまっているボールがどーしてまっすぐ飛ばない」と悩みながら、週2日～3日は練習に出かけています。お誘いいただければ、ご迷惑をおかけしますが、喜んで参加します。

《好きなものは何ですか（歌手、俳優、タレント、テレビ番組、本、食べ物、言葉など）？》

歌手・福山雅治、俳優・福山雅治、タレント・福山雅治、テレビ番組・龍馬伝・・・

結局福山雅治が大好きなんですけど・・・。

《お心に残っている思い出、旅行先など教えてくださいな？》

ミュンヘン・ザルツブルグ・ウィーンに新婚旅行にいき、「蝶々婦人」「大地のうた」「マダムボンパドール」「セビリアの理髪師」と毎晩聞きにいきました。ウィーンでは、演奏会のあとホテルザッハーに行き、真夜中にディナーを食べ、しっかりザッハトルテを堪能しました。

《多趣多芸でいらっしゃいますが他にこれからおやりになりたい事は？》

ゴルフがうまくなりたーい。スキーもうまくなりたーいと日々念じております。

《合唱のご経験をお聞かせくださいな。》

高校時代に部活動で合唱部に入り、短大時代に一般の合唱団に入り、長女の出産をきっかけに遠ざかっていました。また、アンサンブルグループに所属していたこともあります。パートは、アルト⇒メゾ⇒トップ⇒メゾ⇒アルトと各合唱団で変遷を繰り返しました。旭混声ではアルト一筋で宜しくお願いします。（中声は楽しいです）

《ご入団のきっかけは？》

子供二人が名古屋少年少女にはいっており、ソプラノの岩本さんと運命的な出会いがあり、誘われました。以前入っていた合唱団が、人数の減少に歯止めがかからず、解散を経験しており、団員の多さにびっくりするとともに、自宅から練習会場がすぐ近くなので、参加しやすいと思い、入団させていただきました。

♡ひまわりのように明るい伊藤さん！楽しいお話をありがとうございました。（*^_^*）♡

★ブラームス・フォーバーバッハ&シラー★



Friedrich Schiller

Nanieの美しい音楽を遺してくれた“ブラームス”といえば、バッハ・ベートーヴェンと並んで3大Bと呼ばれてドイツの誇る作曲家であることは周知のことですが、ドイツの代表選手となると「ハイドンは？モーツァルトはどうよ？」とか又、19世紀半ばの音楽界を2分した一方のワーグナー派には承伏しがたいと思われます。革新的なワーグナー派との確執は保守的と見られるブラームスが望んだわけではなく、むしろワーグナーを高く評価していたとも言われていますし、ワーグナーの訃報に接したとき「巨匠が死んだ。今日はもう何も歌うものはない」といって合唱団の練習を打ち切ったと言われています。もっとも、ワーグナーの後継者と見られていたブルックナーの作品を「交響的大蛇」と評した《解るような気がするが》とか、要するに作風としては好みには合わなかったようです。（そのくせ、ブルックナー8番の総譜を手に入れようとしていたらしい）

保守的と言われるものの、音楽本来のメロディーやハーモニーを重視して“内面的な言葉、こころを表現（ヴァイオリニスト堀米ゆず子氏の評）”する作品に今なお多くの人が惹きつけられています。

ブラームスは、有名な保養地バーデン・バーデンで作曲の構想を練るとともに、ここで文化人・芸術家との交流を楽しんだらしい、その交流の輪の中で当時の前衛的な傾向に抗してもっぱら古典的な美を追求した画家のアンゼラム・フォーバーバッハとも知り合い、多くの点で意見があう尊敬すべき友人となり、その死を悼んで“鳴り響く哲学（三宅幸夫氏）”というべき美しい音の花束にして“悲歌”を彼の母に贈ったとされていますが、人付き合いの上手でないとされるブラームスだけに貴重な作品ではないでしょうか。

ブラームスとクララ・シューマンの純愛はつとに有名ですが、名器アマーティのような美声をもつ美人（写真で見ると気の強そうな飛び切りの美人）アガーテ・フォン・ジーボルトとの婚約発表直前にブラームスから「どうしましょう？」という便りを彼女に送って、その優柔不断さのために振られてしまったり、その4年後に美声のオットーリーエ・ハウアーという女性に16曲の自筆符を贈るほど惚れ込んだり、ピアノの弟子に入門希望の女性エリザベートがとても可愛らしく、これに怖じ気づいて友人に押しつけたり、惚れっぽいけれど超のつく内気な性格だったようです。

晩年（1890年ごろ）には日本の駐ドイツ公使夫人による琴の演奏も聴いたらしいし、日本の民謡集の楽譜も見ているが、創作意欲には結びつかなかったようです。

ブラームスは知っていても、シラーは知らんでは片手落ちと言うもの、勿論、ベートーベンの第9でシラーの「歓喜の歌」を原語で歌った方も多いことでしょう。

シラーは情熱的・理想主義者な詩人・劇作家・思想家としてゲーテとともにドイツ文壇を代表する双壁であり、自由に対する欲求と美意識に対する憧れが生涯を通じて強かったとされているようです。「歓喜の歌」は23才頃領主（カール・オイゲン）の圧力からの自由を求めてマンハイムに亡命しましたが、逮捕を恐れて転々とする中、当然経済的には困窮を極めました。そのとき青年シラーにとっては名も知らない熱烈なファンのグループが代償を求めない援助を行ったそうです。感激したシラーは「歓喜の歌」を歌い上げましたが、若さと気迫に溢れた作品は人気を博すこととなり、フランス革命後学生たちによってラ・マルセイエーズのメロディーで歌われていたのをベートーベンが引用したとする意見があります、シラー自身は詩としての出来には不満があったようですが、これに対してかねてからギリシャ悲劇、ギリシャ詩人に深い関心を持って“人生の根源的悲劇性と美的超克の崇高美を歌い上げた（内藤克彦氏）”「思想詩」としてギリシャ神話に題材を得た詩が“悲歌”ということです。

シラーは“ウィリアム・テル”を完成してほどなく亡くなりましたが、その死後に2つの頭蓋骨騒ぎが起こり（DNA検査では双方とも別人のもの？）、さぞや瞑符の彼方から美的な解決を望んでいたことでしょう。（T 林）

♪ イベント情報 ♪



● Afternoon Concert

～女性合唱の集い2010～

日 時：2010年10月29日（金） 14：00 開演（13：30 開場）

場 所：電気文化会館 ザ・コンサートホール

入場料：無 料（整理券あり、全自由席）

○稲沢さざんか合唱団

○おばたコーラス

○女性合唱団 スマイル・ハーモニー

○女性合唱団「マーレ」

○コール リリアス

指 揮：永 ひろこ ピアノ：石川 ひとみ・新田 陽子・柴田 理恵

● 稲沢混声合唱団演奏会

日 時：2010年10月30日（土） 14：00 開演（13：30 分開場）

場 所：稲沢市民会館中ホール

入場料：無 料

演奏曲 I 混声合唱とピアノのための「良寛相聞」

II 混声合唱による日本の愛唱歌「どこかで春が」

III 間奏曲＜ピアノ演奏＞ 「6つの演奏会用練習曲OP、35」より「秋」

IV 「Missa in C」(longa) KV262

指 揮：榎戸 啓己 ソプラノ：星川 美保子 ピアノ：中村 千鶴

● 名古屋市民コーラス 第40回定期演奏会

日 時：2010年11月6日（土） 午後4時 開演（午後3時15分開場）

※午後3時45分より指揮者：鈴木秀美氏のプレトークがあります。

場 所：中京大学文化市民会館 オーロラホール（旧名古屋市民会館）

入 場 料：S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円 C席：2,000円

※S席・A席・B席は指定席、C席（4階）は自由席

演 奏 曲：ハイドン作曲 オラトリオ「四季」 Hob.XXI-3 ～自然の恵み 感謝の響き～

指 揮：鈴木秀美 管弦楽：名古屋フィルハーモニー交響楽団

ソリスト：ソプラノ ユリ・ツェル テノール 櫻田 亮 バス 浦野 智行

合唱指揮：長谷順二 合唱：名古屋市民コーラス

◎問合せ・申し込みは：(T) 酒井まで

● 瀬戸メサイア合唱団 第12回クリスマスチャリティーコンサート

日 時：2010年12月19日（日） 13：30 開演（13：00 開場）

場 所：瀬戸市文化センター 文化ホール ◎入場無料です。

指 揮：神田豊壽 ピアノ：山田晶子

演奏曲 ＊「サッチャン」より バスのうた・サッチャン・おとなマーチ・他

＊「メサイア」より

＊ バッハ「イエズ マイネ フロイデ」全曲

＊ クリスマスソング「きよしこの夜」「ジングルベル」他



この歌を知らない、聴いたことがないという人は皆さんの中にはいないでしょう。

それほど、よく知られた童謡ですが、「どんな人形？」また、「アメリカから贈られたという“青い眼の人形”の話ではないの？」となると、よくわからないという人が多いのではないのでしょうか。

●童謡『青い眼の人形』が生まれたのは？

▼この歌が作られたのは大正12年、のちにレコードになっています。アメリカから12,000体以上もの“青い眼の人形”が贈られるのが昭和2年ですから、この歌はその5年前に作曲されています。ここでいう“青い眼の人形”は昭和に入ってからあわただしく決定して贈られてきたもので、この歌が作られた頃にはアメリカから贈られるなどという話は全くありませんでした。

▼作詞をした野口雨情自身による「青い眼の人形の歌詞について」という文章があります。

『青い眼の人形』を書いたのは大正の末であって、その頃は国際愛の声が教育者間にも叫ばれ、総てが国境なしの愛の教育でなければならぬと言われたのであった。顧みれば新興の童謡もこの当時が一番盛んであったのである。家庭にも、学校にも、国際愛を歌ったものが歓迎され、また要求もされたのである。国際愛は結構なことであるが、その結構なことを歌ったよい童謡がなかったから、いろいろと考えた末、その頃日本の子供さん達にも喜ばれていたセルロイド製のキューピーさんを見て、キューピーから思いついたのが、この『青い眼の人形』である。青い眼とか赤い毛とか異国の人形を歌った童謡がなかったので、それを日本の子供さんと取り合わせて書いたのがこの童謡である。その内容は今ここで言うまでもなく、感傷的なものではない。全く途方にくれている、異国の人形をやさしい日本の嬢ちゃん方によって同情された国際愛の童謡で尊い日本精神のあらわれと思えばよい。

▼作曲した本居長世も『青い眼の人形』について書き残しています。（一部省略しました）

この曲は、野口雨情氏と提携して初めて我が国に童謡運動を起しまして、まず最初に世間に発表したのが「十五夜お月さん」「四丁目の犬」などで、それに次いで発表したのがこの童謡でした。そもそも野口雨情氏にこの歌の原稿を示されたとき、これはおもしろい、きっといい曲ができると直感して兩三度繰返し読み下しておったうちに「青い眼をしたお人形は」の主旋律が自然と頭に湧いてきたので、それを骨子として即座に筆をとって、何の苦心も無くすらすらと書き上げたのがこの曲です。そして私の童謡中一番早く広く世間に広まったのもこの曲でした。

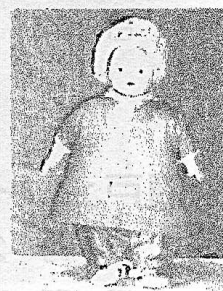
●“青い眼の人形”とは？

“青い眼の人形”とは、昭和2年にアメリカ合衆国から日本の小学校などに贈られた人形のことをいいます。当時は「日米親善の象徴」だった人形が太平洋戦争のころには「敵国の人形」としてかなりの数が処分されてしまいました。現在保存されている数は300体にも満たない数だと言われています。

▼日本が昭和になった頃、アメリカでは「新移民法」が成立して、日米関係が悪化していききました。そうした中で、親日家で、日本に何度か来たこともある宣教師のシドニー・ギュリック氏は、人形を通して日米の親善をはかろうと考えました。

日本には「ひな祭り」という習慣があるので、アメリカから人形を贈って一緒に楽しんでもらおう、という計画でした。このギュリック氏の呼びかけにアメリカ各州の人たちが資金を出し合って、12,739体の人形を購入しました。それぞれの人形に名前をつけ、手作りの服を着せて、本物そっくりのパスポートを持たせて日本におくりました。人形の形も様々でした。

▼「お礼は不要」とのことでしたが、日本からは答礼として58体の「市松人形」が贈られました。



バージニア・マリー